

摩訶般若波羅蜜多心經



心経

(A) 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色声香味触法無眼界乃至無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多是大神呪是大明呪是無上兜率是無等等呪能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜多呪即說呪曰羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提婆婆訶般若

(A) 導入部分。菩薩道の要は般若波羅蜜であると述べる。(B)から(D)は(A)の根拠を説明している。

(B) 般若波羅蜜とは空の理解に他ならず、大きな視点で空とは何かを定義する。

(C) あらゆる事象は空であるが故に相対的であると説く。

(D) 小さな視点から、『個々に於いての無』や『比較や限定の無』を列挙する。

(E) 菩薩の徳を讃え、更には如来の徳も般若波羅蜜の故であると説く。

(F) 般若波羅蜜を称揚し、我々への啓発として(G)に続く。

(G) 『一切は空』が単なる理論にとどまらず、菩薩道実践に向けての願いとして陀羅尼を以て結ぶ。

概説

★ 空とは、無限の可能性

意訳 ★ 無とは、確立性や限定性それ 자체が無いということ。

(A) 觀自在菩薩は、完全なる悟りの叡智に至る為、静かで深い瞑想を行う時、五蘊は皆空であると明らかに見て一切の苦しみから自由になる。

(B) 舍利子よ、宇宙の万物は無限の可能性に異ならず、そうであるからこそ万物は宇宙に満々ているのだ。

無限の可能性は、あるがままの相（すがた）で万物に表れているのだ。

(C) 舎利子よ、この世に起くる多様な現象や自然の理の一切は、そもそも、無限の可能性の中の小さな側面に過ぎず、その側面の一々を生滅や増減や淨不淨で決めつけることはできないのだ。

(D) このような無限の可能性の世界には、常駐不変の物質は無い。従つてそれら無数の物質が集まつてできた一個人の肉体も、また肉体に影響される心も、同様に絶えず変化している。

(E) 備わった感覚器官からの受容を統合して、得られる様々な意識による、『此れはこうである。』といつた絶対的な限定した見方、それは無いのである。

(F) そして誰しもが持つ根本的な生存欲に始まり、その行き着く先の老いと死、更にはそこに伴う苦惱と克服、延いてはそれら全てを引き受ける『我』すなわち『あなた』という主体までもが、連続した不变の存在としては無いのである。

(G) 菩薩はこのような完全なる悟りの叡智に依るが故に、その心限りなく澄み、いつも新鮮な気持として恐れるものはない。

すべての迷いの世界を過ぎ去った安らぎを極めている。

同じく如來もこの叡智に依るが故に、時空を超えた永遠の安静に住まう。

だからこそ、あなたに叡智の祈りを知つてほしい。

それは神秘の詞 それは明らかなる詞 それは素晴らしい詞 それは晴らしき詞 それはかけがえのない詞。

生きよ！ 生きよ！ 生きて悟れよ！ 悟りを生きよ！

悟りに幸あれ！